

令和 4 年度

「運営に関する計画」

【最終評価】

大阪市立新高小学校

令和 5 年 3 月

大阪市立新高小学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校では、安全・安心な学びの場としての学校の構築に向け、教育活動の推進・機動性ある組織的対応・関係諸機関との緊密な連携・校内環境の整備等に注力してきた。その結果、落ち着きのある安全・安心な学びの場となってきている。しかし、一人一人に目を向け、不安を抱えている子どもへの支援を継続していく必要がある。

さらに、Safety Promotion School（以下「SPS」略）認証校として、安全教育とりわけ防災・減災教育を重視して取り組み、成果を上げてきている。しかし、コロナ禍、十分な取り組みができていないのが現状である。家庭・地域・関係機関等の連携の継続に加え、教職員の入れ替わりも多く、今後も取り組んでいける実践力を継続できるようにしていかなければならない。

全国学力・学習状況調査においては、全国平均・大阪市平均を下回っている現状が続いているが、昨年度、大阪市小学校学力経年調査において、大阪市平均を上回る学年、教科がほとんどで、改善が見られる。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童生徒の割合を、90%以上にする。
- 毎年度末の校内調査において、不登校の児童生徒の割合を、毎年、前年度より減少させる。
- 毎年度末の校内調査において、前年度不登校児童生徒の改善の割合を、毎年、増加させる。
- 令和4年度末までに「SPS 中期計画」に基づいた施策を立案し、それを着実に実行している状態を達成とする。令和6年度末までに SPS 認証される。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を、35%以上にする。
- 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.5 ポイント向上させる。
- 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。（R3 77.5%）
- 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 60%（R3 全国 60.6%）以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（小・中学校）

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 80%以上にする。
- 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

学校園の年度目標

- 「SPS 年度計画」に基づいた施策を立案し、それを着実に実行することにより、令和4年度末の児童アンケート（3年以上）の「災害や防災について他人事ではなく、自分にも起こりうる事として考え方行動できた」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、80%以上にする。
- 令和4年度末の児童アンケート「友達一人一人のちがいを大切にしている」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、80%以上にする。
- 児童アンケート「先生や友達とあいさつをしていますか?」「地域の方にあいさつをしていますか?」「お家の人にあいさつをしていますか?」、保護者アンケート「お子様は、地域の方にあいさつをしていますか?」「お子様は、お家の方にあいさつをしていますか?」の項目に対して、肯定的に回答する児童・保護者の割合を、90%以上にする。

「先生や友達とあいさつをしていますか?」 R3→91.9%

「地域の方にあいさつをしていますか?」 R3→88.5%

「お家の人にあいさつをしていますか?」 R3→93.3%

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 32%以上にする。 (R3 31.3%)
- 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.2 ポイント向上させる。
- 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。 (R3 77.5%)
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 57%以上にする。

学校園の年度目標

- 小学校学力経年調査における「学校で出された宿題以外に、自分で計画を立てて学習（予習・復習など）をしていますか。」に対して、肯定的な回答する児童の割合を、50%以上にする。 (R3 46.0%)
- 児童アンケートにおいて、「算数の学習は分かりますか」の項目について、「そう思う（どちらかといえばそう思う）」と答える児童の割合を、全体の 85%以上にする。 (R3 85.9%)

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小・中学校）

- 令和4年度末の校内調査の「学習者用端末は、自分の生活や学習に役だっている」の項目に対して、肯定的に回答する児童の割合を、80%以上にする。
- 1か月の時間外勤務時間が45時間を超えない教職員の割合を70%以上にする。

学校園の年度目標

- 令和4年度末の保護者アンケートの「学校は家庭・地域との連携を密にとっているか」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を70%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

いじめの発見、対応に対する適切な取り組みを行い、いじめは、どんな理由があつてもいけない」「友達一人一人のちがいを大切にしている」という意識を高めることができた。しかし、いじめ認知件数は減少傾向とはいえず、課題が残る結果となった。また、不登校児童の在籍比率についても、前年度より減少させることはできなかつた。「災害や防災」「あいさつ」に関する年度目標は、アンケート結果から見て、目標を達成することができた。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標、学校園の年度目標ともに目標を達成することができた。授業力・指導力を高めるための取り組みが計画通りに進めることができたことが、結果につながつた。

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標、学校園の年度目標ともに目標を達成することができた。次年度も教育DX、家庭・地域等と連携・協働した教育の推進を具体的な取り組み内容を計画し、進めていく。

大阪市立新高小学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

| | |
|-----------------------|--------------------------|
| 評価基準 A : 目標を上回って達成した | B : 目標どおりに達成した |
| C : 取り組んだが目標を達成できなかった | D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標 | 達成状況 |
|---|------|
| 【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】 | |
| 全市共通目標（小・中学校） | |
| ○ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。 | |
| ○ 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 | |
| ○ 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 | |
| 学校園の年度目標 | |
| ○ 「SPS 年度計画」に基づいた施策を立案し、それを着実に実行することにより、令和4年度末の児童アンケート（3年以上）の「災害や防災について他人事ではなく、自分にも起こりうる事として考え方行動できた」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、80%以上にする。 | B |
| ○ 令和4年度末の児童アンケート「友達一人一人のちがいを大切にしている」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、80%以上にする。 | |
| ○ 児童アンケート「先生や友達とあいさつをしていますか？」「地域の方にあいさつをしていますか？」「お家の人にあいさつをしていますか？」、保護者アンケート「お子様は、地域の方にあいさつをしていますか？」「お子様は、お家の方にあいさつをしていますか？」の項目に対して、肯定的に回答する児童・保護者の割合を、90%以上にする。 「先生や友達とあいさつをしていますか？」 R3→91.9% 「地域の方にあいさつをしていますか？」 R3→88.5% 「お家の人にあいさつをしていますか？」 R3→93.3% | |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 進捗状況 |
|--|------|
| 取組内容①【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】 「いじめ防止基本方針」をもとに、定期的に子どもの実態を教職員全体で共通理解を図り、いじめや不登校の事前予防・早期発見・早期対応を組織的に行う。 (いじめへの対応)(不登校への対応) | |
| 指標 ・生活指導部会を月1回実施する。 ・いじめアンケートを学期に1回実施する。 ・保護者アンケートを年間1回実施する。 ・いじめ対策委員会等の場で、関係諸機関（スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー・区役所・子ども相談センター）との連携が必要と判断した場合、管理職は速やかに、関係諸機関に連絡する。 | B |

| | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・次世代学校支援ソフト「スクールライフノート（心の天気・相談機能）」での子どもの心の可視化に対した支援を実施する。 <p>取組内容②【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>SPSの年間指導計画、「警備及び防災の計画」「安全対策マニュアル」に沿って、地域・消防署・区役所と連携し、防災・防犯・交通安全に関する授業・取り組みを進める。</p> <p style="text-align: right;">(防災・減災教育の推進)</p> | B |
| <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通安全学習を学期に1時間以上行い、防災に関する授業を各学年一回実施する。 また、防犯に関する教職員研修、訓練を昨年度同様に具体的に行う。 ・避難訓練（火災、台風、地震、津波等対策）を年3回、関係校園、地域・保護者との合同避難訓練を年2回以上実施する。 | |
| <p>取組内容③【基本的な方向2、豊かな心の育成】</p> <p>朝会講話や学級指導、地域と家庭との連携を通して、あいさつは、良好な人間関係を構築する上で生涯にわたって必要なものであることを児童に理解させる。</p> <p style="text-align: right;">(人権を尊重する教育の推進)</p> | A |
| <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月1回、月曜朝会であいさつの大切さについて講話する。 ・あいさつへの意識が高まるような工夫を凝らしたあいさつ強調週間を学期に1回以上設定する。 | |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | |
| <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。 ☆達成状況 →R4年度調査結果 96% ○ 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 →R3年度 4/676=0.59% ☆達成状況 R4年度 8/659=1.21% ○ 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 →R3年度不登校児童4名 ☆達成状況 →R4年度2名（改善の割合50%） <p>学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「SPS年度計画」に基づいた施策を立案し、それを着実に実行することにより、令和4年度末の児童アンケート（3年以上）の「災害や防災について他人事ではなく、自分にも起りうる事として考え方行動できた」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、80%以上にする。 ☆達成状況 →R4年度 89.4% ○ 令和4年度末の児童アンケート「友達一人一人のちがいを大切にしている」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、80%以上にする。 ☆達成状況 →R4年度 92.2% ○ 児童アンケート「先生や友達とあいさつをしていますか？」「地域の方にあいさつをしていますか？」「お家の人にあいさつをしていますか？」、保護者アンケート「お子様は、地域の方にあいさつをしていますか？」「お子様は、お家の方にあいさつをしていますか？」の項目に対して、肯定的に回答する児童・保護者の割合を、90%以上にする。 | |

☆達成状況

- | | | |
|-----------------------|----------|------------|
| →「先生や友達とあいさつをしていますか？」 | R4→92.3% | (R3→91.9%) |
| 「地域の方にあいさつをしていますか？」 | R4→90.2% | (R3→88.5%) |
| 「お家の人にあいさつをしていますか？」 | R4→91.0% | (R3→93.3%) |

①

- ・指標は達成できている。いじめや不登校の事前予防、早期発見、早期対応も組織的に行なうことはできている。3学期末いじめ認知件数66件(見守り継続指導8件)、3学期末不登校児童8件

②

- ・避難訓練等、予定通り計画し、準備は整ってはいたが、社会情勢や学級閉鎖等により実施できないものや規模を縮小して行うものもあった。

③

- ・先生方の声掛けや強調週間などにより、あいさつする児童が増え、指標は達成することができた。児童アンケート、保護者アンケートの結果も昨年度より概ね向上した。

次年度への改善点

①

- ・アンケートの「そう思う」の割合がどの項目においても減っている傾向にあるので、会議や取り組みの内容の充実を図ることが今後必要。
- ・生活指導部会の内容は、紙媒体があったとしても教職員全体で学期に一回、少なくとも年に2回は共通理解する場を設けたほうがよいと考える。部会後、担当の方からの伝達だけでは伝わりにくいニュアンスや細かな内容を全体で聞くことによって、子ども達により間違いなく還元できると考えるから。

②

- ・引き渡し訓練を来年度は行えるようにしたい。

③

- ・あいさつに関しては、アンケートの結果ほど実際にできていたかは疑問。決められた場所だけでなく、どの場面でも、どの方にもあいさつができるようにしていく工夫が必要。

大阪市立新高小学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

| | |
|-----------------------|--------------------------|
| 評価基準 A : 目標を上回って達成した | B : 目標どおりに達成した |
| C : 取り組んだが目標を達成できなかった | D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標 | 達成状況 |
|---|-------------|
| 【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】 | |
| 全市共通目標（小・中学校） | |
| ○ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を32%以上にする。 (R3 31.3%) | ☆達成状況 34.7% |
| ○ 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対大阪市比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.2ポイント向上させる。 ☆達成状況 国語 4年+0.6 5年-1.2 6年+1.1 算数 4年-0.5 5年+0.8 6年+2.4 | |
| ○ 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。 (R3 77.5%) | ☆達成状況 79.6% |
| ○ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を57%以上にする。 | ☆達成状況 67.0% |
| 学校園の年度目標 | |
| ○ 小学校学力経年調査における「学校で出された宿題以外に、自分で計画を立てて学習（予習・復習など）をしていますか。」に対して、肯定的な回答する児童の割合を、50%以上にする。 (R3 46.0%) | ☆達成状況 47.7% |
| ○ 児童アンケートにおいて、「算数の学習は分かりますか」の項目について、そう思う（どちらかといえばそう思う）と答える児童の割合を、全体の85%以上にする。 (R3 85.9%) | ☆達成状況 85.7% |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 進捗状況 |
|---|------|
| 取組内容①【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】 算数科を中心として、さらなる授業力・指導力の向上に取り組む。 (言語活動・理数教育の充実)(英語教育の強化) | |
| 指標 ・校内授業研究会を年3回。その他、授業公開30回。 ・若手教員の指導力向上を目指した研修を年8回程度行う。 ・算数科や英語の全体研修を通して指導力向上を図ることができるよう設定した研修を予定通りに行う。 ・学習過程を工夫することでより多くの練習問題に取り組む時間を設け、基礎・基本の定着を図る。 | A |

取組内容②【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】

基礎的・基本的な学習を確かにするために取り組む。

(「主体的・対話的で深い学び」の推進) (英語教育の強化)

指標

- 各学年月に数回、年18回程度の漢字の小テストに取り組む。
- 教育委員会事業、淀川区学力向上支援事業「漢字名人育成計画」を活用し、小学5、6年生を対象に漢字能力検定受検に向けて一人一人がめあてをもって計画的に学習に取り組むことを通して学習意欲を高め、着実な学力向上に努める。
- 3年生以上の教室にアルファベットのポスターを掲示し、アルファベットに慣れ親しませる。
- 自学習に積極的に組ませる方策を工夫する。

B

取組内容③【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】

全体での話し合いや小集団での話し合い、協働的な学習に積極的に取り組んでいく。
(「主体的・対話的で深い学び」の推進)

B

指標

- 算数科の研究の視点に「話し合い活動の充実」を据え、校内研究を進める。
- 一人一台端末を活用して、学習が深まる話し合い活動の場を工夫する。

取組内容④【基本的な方向 5、健やかな体の育成】

主として走力・筋力を高める運動や、柔軟力を高め、ケガをしにくい体作りや、身体の調整力を高める意識を養うための体操を行う。

(体力・運動能力向上のための取組の推進)

B

指標

- 教員の指導力向上を目指し、教員研修を年に1回以上開催する。
- 毎時の体育授業導入部分で、学習内容に合わせた部位の動的ストレッチを行う。また授業の終わりに、静的ストレッチ(柔軟体操)を行い体の柔軟性を高める。

取組内容⑤【基本的な方向 5、健やかな体の育成】

- 校内外での体育的活動の場を工夫することで、運動への興味・関心をもたせる。

(体力・運動能力向上のための取組の推進)

A

指標

- 校内外での体育的活動の場を年に2回以上設ける。
- 専門の講師を招聘した授業を年に1回以上開催する。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

①

- 校内授業研究会を3回、授業公開を30回行った。また、若手教員の指導力向上を目指したメンター研修を8回行った。また、算数科や英語科の全体研修も適切に行った。
- 算数科の授業研究において、「学習過程の工夫」を昨年度より研究の視点とし、各学年クラスに5段階の学習過程による問題解決学習が定着してきた。その結果、85.7%の児童が「算数の学習はよくわかりますか。」という問い合わせに肯定的に回答している。
- 上記のような取り組みの結果、算数科に於いては、全学年(3~6年)が大阪市の標準化得点を上回り、児童の基礎的な学力は向上したと言える。また、研究や研修を通して教員の学習指導に対する意識も向上し、学年やクラスが違っても均一な授業を実施できるようになってきた。

②

- ・漢字テストはどの学年も年18回以上行った。
- ・アルファベットに親しみを持てるようにアルファベットのポスターを掲示や英語の授業研究や全体研修行うなど、指導力向上のための様々な取り組みを行ったりしている。
- ・年度当初には、児童全員に「自主学習の手引きを」配布し、自主学習への様々な取り組みを行った。「参考になる自主学習の掲示」「自主学習コンテスト」「自主学習大会」「賞状やメダルの授与」など積極的に取り組んでいる学年もある。
- ・小学校学力経年調査における「学校で出された宿題以外に、自分で計画を立てて学習（予習・復習など）をしていますか。」という問い合わせに対し、肯定的な回答をしている児童は、47.7%と目標の50%を下回った。

③

- ・算数科の授業研究の視点に「自分の考えを伝え合う活動の充実」を据え、考えを伝え合い、高め合うための工夫を、授業研究を通して重ねてきた。また、学力向上指導員を講師として、全体で「自分の考えを伝え合う活動の充実」をテーマに全体研修会を行った。4月当初から「ハンドサイン」や「声の大きさ」などの掲示も全学年で行った。
- ・一人一台端末を活用し、授業の中で話し合い活動やプレゼンテーションなど、学習が深まる話し合い活動の場を多く設けるような取り組みを行った。
- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童は34.7%で、目標の32%を上回った。

④

- ・教員研修は体力テスト実施前に競技の記録向上に向けた指導法、シナプソロジーの伝達研修、プール指導前のろ過機使用研修など複数回行った。
- ・柔軟は今年度から種目に合わせた動的ストレッチを取り入れ、各学級意識的に取り組むことができた。

⑤

- ・校内外での体育的活動の場は、運動会、かけ足週間、かけ足大会、6年生スポーツ交歓会、縄跳び週間、大繩大会と目標を上回って実施することができた。
- ・専門の講師を招聘した授業は、3年生で跳び箱指導、1・3年生で縄跳び指導、5年生でバスケット指導と、目標の1回を上回って実施することができ、5年生ではバスケットを始めたいと感想をのべる児童が多くみられた。

次年度への改善点

①

- ・研究教科が変わっても算数の研究の成果は引き続き踏襲する。
- ・若手教員が多いため、若手の育成をきめ細かく、丁寧に行えるように研修を充実させる。

②

- ・漢検受験に向けての指導方法の工夫など、系統的に漢字指導を行っていくための学校としての取り組みが必要である。
- ・各学年の自学習への取り組みを学校の取り組みとして広げていく。また、学校だよりや学年だより、ホームページ等で自主学習の経過の取り組みの経過を発信するなど、家庭での協力を呼びかけや学習環境づくりを向上させていく。

③

- ・算数科のみならず、その他の教科や活動においても話し合い活動場を工夫する。また、そのための教員研修を積極的に実施する。

④

- ・動的ストレッチの種類を増やすなど、取り組みやすさを向上させる。

⑤

- ・専門の講師を招聘した授業に関して、従来は5年生の「夢授業」のみを基本として計画をしていたが、淀川区の取り組みを利用して今年は1・2・3年生が専門的な授業を行うことができた。来年度は抽選ではあるが、全学年取り組むことができるよう計画を行う。

大阪市立新高小学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

| | |
|-----------------------|--------------------------|
| 評価基準 A : 目標を上回って達成した | B : 目標どおりに達成した |
| C : 取り組んだが目標を達成できなかった | D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標 | 達成状況 |
|---|------|
| 【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】 全市共通目標（小・中学校） <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和4年度末の校内調査の「学習者用端末は、自分の生活や学習に役だっている」の項目に対して、肯定的に回答する児童の割合を、80%以上にする。 ☆達成状況 90.8% ○ 1か月の時間外勤務時間が45時間を超えない教職員の割合を70%以上にする。 ☆達成状況 89.4% 学校園の年度目標 <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和4年度末の保護者アンケートの「学校は家庭・地域との連携を密にとっているか」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を70%以上にする。 ☆達成状況 78.5% | A |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 進捗状況 |
|--|------|
| 取組内容①【基本的な方向6、教育DXの推進】 個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けてICT教育を推進する。 (ICTを活用した教育の推進) | A |
| 指標 <ul style="list-style-type: none"> ・学習者用端末を用いた自主学習を週2回以上、授業での活用を週2回以上行う（1年生を除く）。 | |
| 取組内容②【基本的な方向7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 人材やICTを活用して、業務を効率化していく取り組みを一層進めていく。 (働き方改革の推進) | B |
| 指標 <ul style="list-style-type: none"> ・教職員自身が業務を見直し、月1回以上、スクールサポートスタッフへ業務を委託することや、ICTを活用した業務の効率化の成果を年3回以上、共有し合う。 | |

| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 |
|---|
| ① <ul style="list-style-type: none"> ・学習者用端末を用いた自主学習は、朝学習や授業時間の中でどの学年も週2回以上は活用できている。授業での活用も、各教科で進んだ。また、授業だけでなく、委員会活動や学級活動で、児童自らが学習者用端末を選択して効果的に活用している。 |
| ② <ul style="list-style-type: none"> ・本校の教員一人当たりの平均時間外勤務時間は、26時間8分となり、大阪市の27時間18分を下回る結果となった。しかし、昨年度より2時間46分増加した。 ・スクールサポートスタッフの活用は、非常に進んでいて、学校運営に欠かせない役割を担っている。教員が個々にサポートを受けたい内容で活用できている。職員朝会を通じてスクールサポートスタッフの担った業務を職員に伝達した。ICTを活用した業務の効率化については、今年度、学校アンケートの作成、集計に成果があった。 |

④

- ・2月に地域合同防災訓練を実施することができた。PTA活動、図書館ボランティア活動、見守り活動も実施でき、子どもたちと地域・PTAの方々との交流も進んだ。

次年度への改善点

①

- ・学習者用端末の活用は、児童の発達段階や学習の目標に合わせて効果的に活用できるよう、ひきつづき実践を重ねていく。

②

- ・次年度もスクールサポートスタッフの配置が見込まれる。効果的に活用することで、教職員だけでなく、子どもたちの学校生活のサポートにつながるようにしていく。

③

- ・新高幼稚園を中心に、幼（園）小連携を進め、円滑な幼（園）小接続が行えるようにする。加えて、諸活動が新高小の子どもたちの自己有用感を高め、楽しい学校生活になるよう取り組んでいく。